

# 日々是Oracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

2022年3月14日月曜日

## CS\_SESSION.SWITCH\_SESSIONを呼び出しコンシューマー・グループを変更する

少し前にAutonomous DatabaseにてパッケージCS\_SESSIONのSWITCH\_SERVICEを呼び出すことにより、リソース・マネージャのコンシューマー・グループの切り替えができるようになりました。

パラレル・クエリまで実行して動作を確認するのは手間がかかるので、単純にセッションに設定されているサービス名を確認してみます。

最初にAPEXのワークスペースからパッケージCS\_SESSIONを呼び出せるよう、実行権限を与えます。

```
grant execute on cs_session to <APEXワークスペース・スキーマ名>;
```

データベース・アクションのSQLより実行します。APEXのワークスペース・スキーマをAPEXDEVとします。

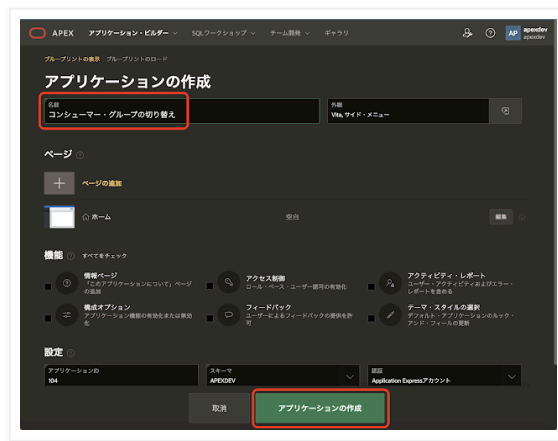
```
grant execute on cs_session to apexdev;
```



APEXのアプリケーション・ビルダーを開きます。

アプリケーション作成ウィザードを起動し、コンシューマー・グループを切り替えを確認するために使用する簡単なアプリケーションを作成します。アプリケーションの名前は**コンシューマー・グループの切り替え**とし、空のアプリケーションを作成します。

アプリケーションの作成を実行します。

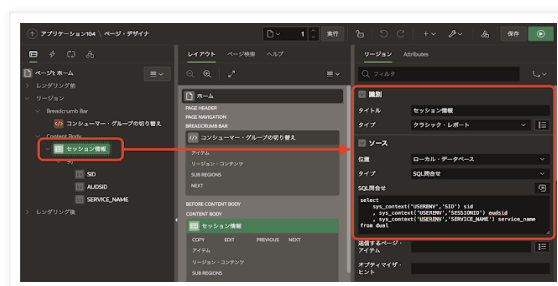


アプリケーションが作成されたら、ページ・デザイナーにてホーム・ページ（ページ番号1）を開きます。



ホーム・ページのContent Bodyにリージョンを作成します。識別のタイトルはセッション情報、タイプとしてクラシック・レポートを選択します。ソースの位置はローカル・データベース、タイプとしてSQL問合せを選択し、SQL問合せとして以下を記述します。

```
select
  sys_context('USERENV','SID') sid
  , sys_context('USERENV','SESSIONID') audsid
  , sys_context('USERENV','SERVICE_NAME') service_name
from dual
```



以上でアプリケーションを実行し、レポートの表示を確認します。

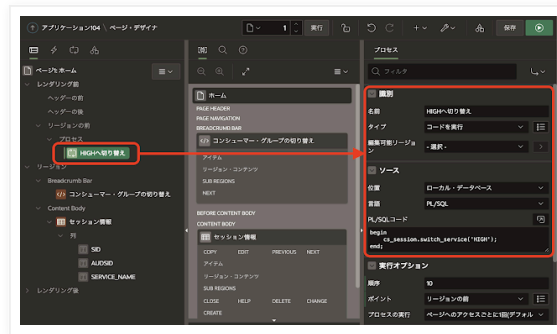
デフォルトのコンシューマー・グループはLOWです。SERVICE\_NAMEより、コンシューマー・グループがLOWであることが確認できます。



コンシューマー・グループを切り替えるプロセスを作成します。

リージョンの前にプロセスを作成します。識別の名前をHIGHへ切り替えとし、タイプとしてコードを実行を選択します。ソースのPL/SQLコードには以下を記述します。

```
begin
    cs_session.switch_service('HIGH');
end;
```



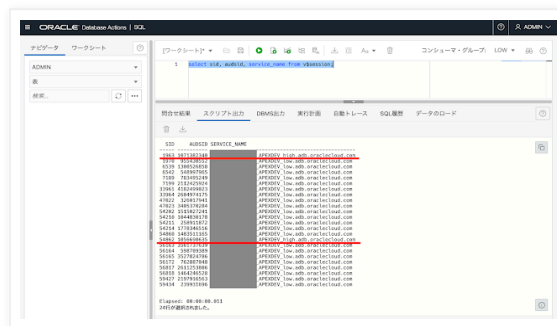
再度、レポートを確認します。

SERVICE\_NAMEより、コンシューマー・グループがHIGHに切り替わっていることが確認できます。



副作用がないかどうか、データベース・アクションよりV\$SESSIONを検索して確認します。

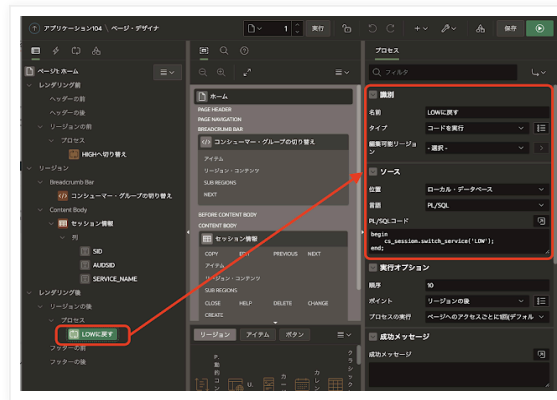
```
select sid, audsid, service_name from v$session;
```



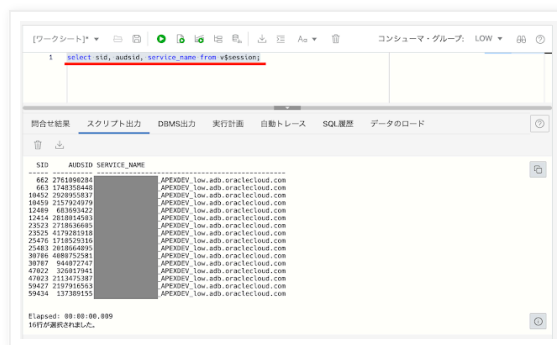
APEXのページ・プロセスが終了した後に、コンシューマー・グループがHIGHのままのセッションが存在していることが確認できます。

意図しない動作が発生しないように、リージョンの後にプロセスを作成し、PL/SQLコードとして以下を実行します。コンシューマー・グループをLOWに戻します。

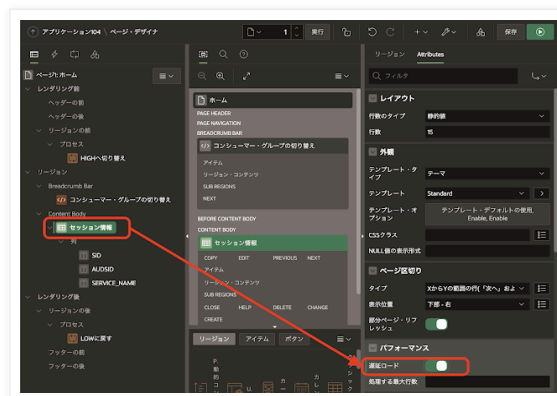
```
begin
    cs_session.switch_service('LOW');
end;
```



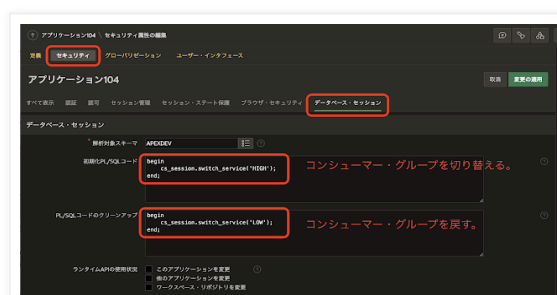
データベース・アクションからSELECT文を実行すると、先ほどとは異なりコンシューマー・グループがHIGHのサービスは残っていないことが確認できます。



レポートの遅延ロードがONの場合は、ページ・プロセスとは異なるデータベース・セッションにてSELECT文が実行されます。そのため、コンシューマー・グループが切り替わりません。



遅延ロードでは、アプリケーション定義のセキュリティのデータベース・セッションのセクションに含まれる初期化PL/SQLコードとPL/SQLコードのクリーンアップにコードを記述して対応することができます。



この設定ではアプリケーション全体のコンシューマー・グループが切り替わります。

Autonomous Databaseでのコンシューマー・グループの切り替え処理の確認については以上です。

Oracle APEXのアプリケーション作成の参考になれば幸いです。

完

Yuji N. 時刻: 15:04

共有

---

◀

ホーム

▶

[ウェブ バージョンを表示](#)

自己紹介

**Yuji N.**

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。  
こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

[詳細プロフィールを表示](#)

Powered by Blogger.

---